

# 地域と大学

第9号

Newsletter No.9, Center for Education and Research of Lifelong Learning

## 『きて見て静大』・「やきもの考古学②」の受講者

生涯学習教育研究センター教授 柴垣 勇 夫

平成12年度の秋口に、滝欽二センター長の発案で、公開講座をもっと開放的な方法で行うための、『飛ぶ教室』と呼ぶ出前講座や、『きて見て静大』という学内での実技的な講座を計画的に実施する事業が、生涯学習教育研究センター運営委員会で承認された。そして、平成13年1月からセンター教官の研究分野を生かした講座を、その糸口として具体化させることとした。講師や施設・教室の使用等を煮詰め、年明け1月下旬から日曜ごと5回の講座を、①陶磁史講義、②古窯跡調査で出土した志戸呂焼陶片の復元と、③④志戸呂焼に使われたものに近い釉薬を使って、初歩のやきものづくりを教育学部の美術教室の応援を得て実施し、⑤講評と土と釉薬の話で組むこととした。講師には、実技の指導に陶芸家前田正剛氏と美術科教室教務補佐員土田美智子氏、講話を愛知県立芸術大学助教授太田公典氏にお願いし、要項を定め実施した。これには教育学部美術教育の先生方のご協力で、教室使用を認めていただいた。募集は、20人で1月9日に募集したところ、3日間で即締め切ってしまうこととなった。受講者の平均年齢は54才で、28才から70才の幅があり男女比は6対14であった。終了後に寄せられた感想には、古陶磁に触れられて良かったことと、土の成分に関する講話が、大変興味深かったといったことが寄せられた。

今年度は、②の復元作業には、古代の須恵器に焦点をあて、一昨年調査した藤枝市の助宗古窯の出土品整理を行っていたこともあって、この8世紀の須恵器を復元し、④に自然釉の調子をもつ灰釉をかけてやきものの変化を、実際に経験してもらうこととした。陶磁史の変化を取り入れ、技術の発展過程も体験するという、大学ならではの講座を心がけ、その特色を持たせることに意を注い

だ。そして、講師には前年の講師陣に加えて、人文学部考古学の篠原和大助教授にも加わっていただくことができた。今年も年明けの1月8日に募集要項を記者発表したところ、翌日の募集記事から3日のうちに、募集人員20人があつという間に埋まってしまった。前回の応募者は、今回は受け付けないこととしたが、三人ほどの昨年の受講者から、欠員があつたら是非入れて欲しいとの希望があった。残念ながら希望には答えられなかったが、人気の高さを感じた。

やきもの考古学と名付けた理由は、静岡の窯業史を見直し、資料の保存と特色ある地域文化を浮かび上がらせることが地域とのつながりを広げることになると考えたからに他ならない。前回と対象資料を変えたことで、より考古学に関心を持つ人の応募が高かったようで、受講者のアンケートに古代の須恵器に触れられることへの期待が高かったことがあげられていた。昨年同様、土と日の日程で組んだ4週に5回の講座だったが、受講者は、48才以上の中高年齢層（平均60才）、男女比は、10対10の同比で、陶芸を少し経験した人が数



講師（右篠原助教授、中央柴垣）と須恵器の復元作業にとりくむ受講生

人参加していた。大学の教室での講義や実技が新鮮で楽しいという反響が強い反面、国立の施設の古さにちょっと驚いたという意見も多かった。浜松や豊田町から6名の参加もあり、環境の良さが気に入り、春には櫻を見にまた訪れたいと数名の人が答えていた。

参加者の年齢のせいもあるが、大学での文化講座や、実技教室、見学を交えた講座を期待する声が多く、少人数構成によるこうした公開講座への期待の高さが感じられる。リフレッシュやリカレント教育への橋渡しに、小事業ながら学内全体に広がることを望みたい。



「土と野菜」を語る太田講師と受講生

## 平成13年度公開講座受講者アンケートから

今年度秋に実施しました、四会場の公開講座について参加された受講者のアンケートを集計しま

した。

下表のような結果でありました。

	浜松会場	清水会場	沼津会場	浜北会場
期 間 (5回)	9/8~10/20	9/1~10/27	9/22~11/3	10/6~11/17
会 場	工学部佐鳴会館	市中央公民館	市民文化センター	市文化センター
実 施 時 間	土・14:00~	土・14:00~	土・14:00~	土・14:00~
テ ー マ	人に優しい科学技術	静岡・清水平野の歴史と文化	静岡発の世界史	くらしを変える最先端
募 集 者 数	50	50	50	50
受 講 者 数	23 (-7) ※ ( ) は昨年比	62 (+37)	53 (+3)	23 (-2)
男 / 女 比	12 (-9) / 11 (+2)	38 (+26) / 24 (+11)	29 (+11) / 24 (-8)	12 (-3) / 11 (+1)
平 均 年 令	59.8	63.1	63.8	59.1
居住地(市内/市外)	19/4	34/28	32/21	17/6
受 講 歴 初 回	2	23	8	6
〃 2 回 目	3	6	8	8
〃 3 回 目 以 上	11 (回答16)	11 (回答40)	13 (回答24)	2 (回答16)
今後受講希望講座	先端4、生活密着3	歴史12、地域9	歴史9、地域5、心	歴史5、時事問題4

①希望講座ではどの会場でも他会場のテーマに関心がある人がいた。また、会場問わず自分たちの地域に対する関心が高く、それぞれの地域性を踏まえた上でその歴史・文化・経済について講義をしてほしいという意見が根強くあった。

②公開講座全体への意見としては、講義形式だけでなく実技・実習的な要素を取り入れてほしいという要望が強く、また一般教養的なテーマだけでなく、仕事に役立つような専門的知識を習得するリカレント教育的な位置づけの講座を開講してほしいという要望があった。

③受講者の居住地データをみると会場間に大きな差があり、特に市中心部から離れた浜松会場では市外からの受講者が極端に少ない。次年度は、アクセスのよさに配慮して開講場所を決定することにした。

## 平成14年度静岡大学公開講座の概要

平成14年度静岡大学公開講座の概要が1月の生涯学習教育研究センター運営委員会で決まりました。8月27日の静岡大学大谷キャンパス内での講座を皮切りに、静岡（静岡大学内）、沼津会場（沼津市民文化センター）、清水会場（清水市中央

公民館・清見湯公園スポーツセンター）、浜松会場（クリエイト浜松）の四会場で、10月26日まで随時開催されます。大テーマと主な内容は、次ページのとおりで。

## 平成14年度静岡大学公開講座

地区	清水会場	沼津会場	静岡会場	浜松会場
講座名称	運動習慣と生活習慣病 生活習慣病予防のために楽しく動こう	静岡発の産業と文化	住まいと木材一講義と実験一	静岡発の産業と文化
共催等	清水市教育委員会（共催）	沼津市教育委員会（共催）	県木材協同組合連合会（後援）	浜松市教育委員会（後援）
会場	市中央公民館・清見湖公園スポーツセンター	沼津市民文化センター	静岡大学大谷キャンパス	クリエイト浜松
受講対象	市民一般（高校生以上）	市民一般（高校生以上）	木材・住宅産業の技術者	市民一般（高校生以上）
募集人員	40人	50人	40人	50人
開設期日	9/21、28、10/5、12、19、26 6回	9/7、14、28、10/12、19 土5回	8/27（火）、8/28（水）2日間	8/31、9/7、14、21、28 土5回
時間数	1日2時間 計12時間	1日2時間 計10時間	1日7時間 計14時間	1日2時間 計10時間
開設時間	14:00～16:00	14:00～16:00	9:00～12:00、13:00～17:00	14:00～16:00
講習料	6,800円	5,800円	6,800円	5,800円
受付期間	8/26（月）～9/6（金）	8/12（月）～8/23（金）	7/30（火）～8/13（火）	8/5（月）～8/16（金）
受付場所	清水市中央公民館	沼津市教育委員会生涯教育課	静岡大学研究協力課共同施設係	静大研究協力課共同研究係（浜松）
講座内容	生活習慣病や運動の科学について講義（2回）の後、4回にわたってウォーキング、軽スポーツなどの実技、血圧チェック、健康体力測定などを実施する。 講師：保健管理センター山本裕之先生および教育学部保健体育稲村欣作、中野偉夫、河合学、横山義昭、杉山康司各先生	静岡県を起点として発展した産業や文化を検証し、その歴史や未来を解き明かす。 東部地域に特徴的な水と製紙、水産加工業などを内容とした経済を絡ませた構成とする。 講師：人文学部本多隆成、小櫻義明先生、情報学部荒川章二先生、県工技センター河村傳兵衛氏、農学部鈴木恭治先生	木材工業・住宅産業に携わる技術者を対象に、最近の我が国の木材・住宅に関する動向や材料の解説および木材強度試験、耐震性木構造試験、ホルムアルデヒド測定試験などを交えた構成とする。 講師：農学部吉田彌明、祖父江信夫、安村基、渡邊拓、山田雅章先生、教育学部今山延洋、小川裕子先生、外部講師高木滋生設計事務所長、石原茂久京大名誉教授	静岡県を起点として発展した産業や文化を検証し、その歴史や未来を解き明かす。 西部地域に特徴的な自動車産業あるいは楽器、水産業などを内容とした経済を絡ませた構成とする。 講師：人文学部本多隆成、小櫻義明先生、情報学部荒川章二先生、県工技センター河村傳兵衛氏、ヤマハ林田甫氏

## 平成13年度後期生涯学習教育研究センター事業の報告

### ●「しずだい・飛ぶ教室」の開催

生涯学習教育研究センターでは、今年度から新たな大学開放事業として「しずだい・飛ぶ教室」を開設しました。今年度は、平成13年11月～12月に2講座を大東町にて講演会として開催しました。共に大東町の地域リーダーを中心に約100名の聴衆を集め、盛会の裡に終了しました。

センターではこれからも地域のニーズに応えた出前講演会「しずだい・飛ぶ教室」を行います。希望がありましたらセンターまでご連絡ください。

11月15日（木）19:00～20:30

「最近の日本の政治から」（人文学部 白鳥 浩助教授）講演要旨：1993年以来、いわゆる「政界再編」というキーワードによって特徴づけられる日本政治。その動向を国会、県政両面で展望されました。

初回の「飛ぶ教室」であり、佐藤博明静岡大学

### ●キャンパスツアー2001終了

11月17・18日に、広報委員会と共催で静大祭に合わせ、中・高校生を含む一般市民を対象に、学部及び諸施設の研究活動及び展示品等を公開する「キャンパスツアー2001」を静岡キャンパスで実施しました。県内以外にインターネットで情報を知

学長も駆けつけ挨拶されました。

12月12日（水）19:00～20:30

「通信簿はなぜ、いつ使われ始めたか」（教育学部 花井 信教授）講演要旨：明治の通信簿発行の目的は、学習状態を家庭に連絡するためだった。遠江に残る記録から地域と結びつく教育の原点を説かれました。



大東町「飛ぶ教室」での花井信教授の講演と聴衆

った千葉・東京・神奈川・長野・愛知・大阪からの参加もあり、初日12名、2日日62名の参加を得ました。広報委員の方々と文系、理系2コースを案内しましたが、各研究室で学部生・院生にも質問が飛び盛況でした。

## ●浜松で「多文化共生時代の地域づくりと大学」公開シンポジウム

今年度の生涯学習教育研究センター学外公開シンポジウムは「多文化共生時代の地域づくりと大学」と題し、12月2日（日）13：00～16：00、浜松市福祉文化会館（浜松市成子町140-8）にて開催いたしました。東京都立大学野元弘幸教授、静岡文化芸術大学池上重弘助教授、教育学部宇都宮裕章助教授、浜松国際交流協会相談員三池アリセミホさん、浜松日本語センター宮司恭子さんによる講演、全国各地の事例、浜松及び県西部での取り組み、大学での試みなどが報告され、その後教育学部石井潔教授の司会により討論会が行われま

## ●生涯学習指導者研修事業を学生参加で実施

センターでは、静岡県公民館連絡協議会との連携事業として下記の生涯学習指導者研修を行いました。当日は公民館関係職員、市町村職員の方約50名、生涯学習課程学生諸君約30名の参加・実習成果発表を交え、公民館と大学のあり方、地域づくりの方策について活発な討論が行われました。テーマ：「これからの公民館活動と生涯学習」日時：平成13年12月5日（水）10：00～16：00会場：静岡市寺田131-1長田公民館2階会議室講師等：内田忠平（常葉学園大学教授）、角替弘志（同）、石井山竜平（静岡大学教育学部助教授）、

## ●「学習ネットワークと生涯学習4」の開催

今年も下記の日程で標題のSCS公開シンポジウムを実施しました。今年度は、学習ネットワークの核となる"ターミナルとしての学校"の実現に関わる実践者・研究者を招き、生涯学習の拠点として学校を再構築する可能性を検討しました。日時：平成14年1月21日（月）14：30～17：00場所：静岡大学附属図書館6階SCSメディアルームSCS（衛星回線を用いた遠隔会議システム）により、福島大、筑波大、茨城大、京都教育大、大

阪教育大、宮崎大と結んで行い、静岡会場では、学生・教職員、生涯学習関係者など約30名が参加しました。



「多文化共生時代の地域づくりと大学」シンポジウム風景

望月範子（清水市高部公民館長）、栗岡理子（ボランティア）、成果4例発表。



生涯学習指導者研修での講師と発表学生の討論会風景

事例報告に、静大情報学部 堀田龍也助教授、新潟県聖籠町教育委員会の高井和治指導主事、静岡県立榛原高校定時制の西川 徹教諭、コーディネーターに、常葉学園大学教育学部内田忠平教授をお願いし、実施しました。

## 生涯学習教育研究センター通信

### ●静岡市内大学・短大連携講座

#### 「静岡人を解剖する」への講師派遣

静岡市内の静岡大学・常葉学園大学、同短大、英和女学院短大の4大学が協力し、連携講座を静岡市とともに行うこととなり、「静岡人を解剖する」をテーマに10/27から12/8にかけて4回実施されました。本学から12/8に人文学部小櫻義明教授に「静岡市のまちづくりと市民意識」と題した講義を行っていただきました。会場は静岡市南部公民館で、30名の一般市民の方が熱心に受講されました。

### ●公開講座から発展した棚田農・清沢塾の収穫祭

静岡大学開学50周年記念公開講座（SBS静岡新聞との共催）は1998～2000年にかけて開かれましたが、その中の「地球は世界人口を支えられるか」（1999. 12. 4開講）が契機となって、清沢塾というプロジェクトが誕生しました。受講生と大学有志約30名が集まり、静岡市薬科川上流の清沢の山あいに放置された棚田を地元の方々のご好意で借り受け、自然農によって修復しています。11月10日（土）に無事収穫を迎え、講座の講師だった中井弘和農学部教授（副学長）に加え佐藤博明学長、滝欽二センター長、天岸祥光理学部長も参加して収穫祭が行われました。

生涯学習教育研究センターでは、事業のお知らせや内容を逐次ホームページに掲載しています。ご意見などお寄せ下さい。また学部の公開講座情報、大学開放事業などをこのニューズレターに掲載し、広報します。事業内容などお知らせ下さい。TEL/FAX 238-4817 がセンター資料室・受付です。

ホームページ <http://www.shizuoka.ac.jp/~cerll/>

## 地域と大学 第9号

### 静岡大学生涯学習教育研究センター情報誌

平成14年3月20日発行

〒422-8529 静岡市大谷836（理学部B棟1階）  
静岡大学生涯学習教育研究センター  
TEL/FAX 054-238-4817（資料室・受付）  
事務局 静岡大学研究協力課共同施設係  
TEL 054-238-4264